

南ユタ大学短期プログラム 帰国報告書

函館校 国際文化・協力専攻

3年 金澤 彩

今回の夏休み、私は南ユタ大学の短期プログラムに参加させて頂きました。1ヵ月間という短い期間ではありましたが、その中で多くのものを得て、今自分が成長したことを実感しています。

特に私は、大学入学以前からアメリカ文化に関心を持っており、私にとって、アメリカが一番訪れたいと願っていた国でした。そのため、無事に参加が決定してから出発の日までは、不安よりも、期待と喜びで胸がいっぱいでした。出発前の唯一の不安は、出発前日までホストファミリーの情報が全く無かったということくらいでした。家族構成などがわからず、お土産を選ぶ際には悩みましたが、無難に日本のお菓子を選び持っていき、喜んでもらえました。

ホームステイ先では、私の他に函館校から3人のルームメイトがいました。しかし予想外なことに、ひと部屋に2つのベッドしかなく、まさかとは思ったのですが、セミダブルほどの広さのベッドで1ヵ月間、ルームメイトと共に寝ることになりました。他のホームステイ先では、一人ひと部屋の人もいて、私たちみんなが不満をもらしていましたが、これも経験の一つだ、と次第に不満も減り、それぞれたくましくなっていることを全員が実感していました。また、私たちのステイ先だけが、大学がある市から外れたところにある郊外に位置していました。そして、ホストファミリーの事情もあり、授業が終わったらすぐ家に帰るといって、大学と家の往復の生活を帰国前1週間まで送っていました。そのため、放課後にシーダーシティを探索する時間がほとんど無く、この点においては私たちの不満が募っていましたが、その分ホストファミリーとたくさん触れ合いました。そのなかで、アメリカの日常生活を体験し、文化にも触れることが出来ました。さらに、私たちのホストマザーは料理がとても上手で、毎日美味しい料理を食べることが出来ました。私は食べるのが大好きなため、出発前は、「アメリカに行ったら絶対太る」



1 ホストファミリー

という謎の自信しかなかったのですが、今回私たちのホストファミリーは厳格なモルモン教徒ということもあり、かなりヘルシーな生活を送っていました。そのため、私や周囲の自信とは裏腹に、間食のない生活とヘルシーな料理のおかげで、アメリカで太るということはありませんでした。また、私たちはホストファミリーのために、日本食である

オムライスを作りました。みんな喜んで食べてくれて、それを機にホストファミリーとの距離もぐっと縮まりました。ぜひ、次回参加する人たちにもホストファミリーに日本食を作ることをお勧めします。

南ユタ大学が位置するシーダーシティは、小さな街で穏やかな場所でした。また、モルモン教徒が多く住んでいる場所であるため、バーは2つしかなく、お酒を買える場所なども全くと言っていいほどありませんでした。私は、帰国前1週間に21歳の誕生日を迎え、アメリカでも飲酒が出来る年齢になったのですが、結局バーなどでお酒を楽しむことは出来ませんでした。しかし、モルモン教徒が多く住



2 みんなで作ったオムライス

む街であるため、シーダーシティの治安はとても良く、油断は禁物ですが、アメリカとは思えないほど安心して外を歩くことが出来ました。さらに何よりも、私はシーダーシティの人々の親切さやフレンドリーさに感心しました。スーパーマーケットやガソリンスタンドの店員さんまでもが、私たちに気さくに話しかけてくれて、アメリカ人のコミュニケーション能力の高さに圧倒され続けました。

シーダーシティの気候は、9月前半までは暑いのですが、中旬頃からは結構冷え込みます。私は油断して暖かい服装の準備をして行かなかったため、現地で服を買いました。そのため、羽織るものが1枚あるとかなり重宝すると思います。

南ユタ大学では、主に英語のスキル向上を目的とした語学クラスを受講するのだと私は期待していました。しかし実際は、英語のスキル向上というよりも、将来私たち全員が英語の教師になるということが想定された上での、教育系の授業でした。さらに、レベル別にクラス分けがされるという話が出発前にはありましたが、実際には、プログラムを通して、教育大メンバーのみで授業が行われました。正直に言うと、シラバスは配られるものの、それに従って授業が行われているとは言えず、授業の内容にはあまり満足が出来ませんでした。しかし、毎週木曜日にはイン



3 イングリッシュクラスでの交流会

グリッシュクラスの見学に行き、南ユタ大学の授業を実際に見ることが出来ました。学生たちもフレンドリーな人が多く、イングリッシュクラスの見学を機に顔見知りの友達を増やすことも出来ました。授業ではあまり英語を話す機会がなかったため、イングリッシュクラスでの交流では自ら学生に話し

かけに行ったり、そのクラスでの先生の質問に自発的に答えたりするなど、自分から英語を話す機会をつくり、スピーキングやリスニングの練習をしていました。そしてそれらを通して、話すスキルだけでなく、積極的に自分の意見を言うという度胸も身につけることが出来ました。プログラムの途中からは、授業に期待するのではなく、授業の外でも自ら英語を使おうと動かなければ何も変わらないということに気付きました。そして、これまで顔見知り程度だった友達にも自分から挨拶し、話すことで親しくなることが出来ました。そして、話しているうちに自分の英語のスキルが向上していることに気づき、それが自信にも繋がり、さらに英語の学習に対するモチベーションも高まりました。今でも、あの時思い切って動いて良かったなど自分に驚くことが多くあり、自分の成長を感じています。そして、留学で何かを得るために必要なのは、自分の勇気だと実感しました。初めての地で、しかも1ヵ月間という慣れることにやっとの期間の中でも、自分の留学の動機を見失わず、勇気と自信を持って積極的に動けば、きっと1ヵ月間とは思えないくらいの成果が気づかないうちに出ているはずです。人見知りの私でしたが、1ヵ月間、なんとしても英語を話す機会が多く欲しいという想いで、出会った人々には積極的に話しかけていました。そして、自分が期待していた以上の成果が得られたと実感しています。逆に言うと、自分から動かなければ何も変わりません。

最後に、今回、私がずっと行きたいと言っていたアメリカに行くことを認めてくれ、さらに経済的にも支援してくれた両親には、心から感謝しています。学務の方も、今回の留学のサポートを親切にして頂き、私の出発前に携帯をなくすというありえないトラブルにも丁寧に対応してくださいました。そして、今回一緒に南ユタに行った仲間には心から感謝しています。全員個性的で面白く、悩んだり、落ち込んだりした時はいつもサポートしてくれました。このメンバーで行けたことを心から嬉しく思います。今回私がこの留学を楽しめたのは、周囲の力があってからこそだと実感しました。留学は費用もかかるし、不安なことも多くあると思いますが、

私は今回のこの経験を通し、一度きりの人生、一度は留学することをお勧めします。次回このプログラムに参加する方々には心から、楽しんで！と言いたいです。



4 キャット先生と教育大のメンバー